

## 大学祭実行委員会

### 九十九祭を振り返って

大学祭実行委員会委員長 津野 日奈子(看護福祉学部 看護学科3年)



九十九祭は今回で38回目を迎え、多くの方々のご協力により、無事終了することができました。まずはこの場をお借りし、九十九祭にご協力いただいた学生や教職員の皆様をはじめ、関係企業ならびに協賛していただいた企業の皆様、当別町の皆様、そして九十九祭にご来場いただいた皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

私たち大学祭実行委員会は、既存の企画はもちろん、SNSを利用した新たな企画も取り入れるなどして、ご来場いただく方々一人ひとりに楽しんでもらえるよう工夫を凝らしながら準備を行ってきました。今回は小雨が降る中での前夜祭及び花火の打ち上げとなりましたが、私の念が通じたのか、何とか本祭の二日間は雨に降られることなく、運営することができたので本当に良かったです。

しかしながら、今回は予想外のトラブルが多くあった年でもありました。何があっても対応できるよう準備はしていますが、トラブルはつきものです。これはむしろ、次回をよりよくするための材料が増えたポジティブに捉え、しっかりと反省・改善をして、次の代へと引き継いでいきます。

現在、大学祭実行委員会では、次回の大学祭に向けて準備を進めております。関係者の皆様には、変わらぬご支援・ご協力をお願いいたします。これからも私たち大学祭実行委員会と九十九祭をよろしく願っています。



## 体育局

### 体育局を振り返って

体育局長 林 智也(リハビリテーション学部 理学療法学科3年)



体育局の仕事には主に毎月行われている定例会を運営し、学生支援課からの連絡を各部活・同好会に周知させること、各部活・同好会の予算や決算の面談を行うこと、毎月の体育館割り当ての日程を作成することがあります。

私は1年間体育局長として副局長、書記と共に上記の仕事をしてまいりました。しかし今まで体育局長などの上の役職についたことがなかったので、最初の頃は仕事に慣れず、学生支援課や部活に迷惑をかけてばかりでした。

定例会では人前に立って話すことが苦手で緊張で早口になってしまい、下ばかり向くことが多く、連絡事項がうまく伝わらなかったことがありました。また、体育館割り当ての作成ではあまり各部活・同好会の要望に応えることができずに作成が遅くなることもありました。

しかし、体育局の仕事をしていくうちに仕事に慣れてきて、苦手だった人前で話すことが少しずつですができるようになってきました。体育局は仕事が多岐多彩大変でしたが、このような仕事は自分自身が成長できる貴重な経験だと思います。

最後にこれまで体育局を支えてくださった学生支援課の沼田さん、副局長の中山君、書記の橋内君、そして各部活・同好会の代表者さんにお礼を申し上げます。1年間本当にありがとうございました。

# TOPICS

## 歯学部5年生が歯科基礎医学会「優秀学生ポスター賞」を受賞

8月24日(水)から26日(金)の間、第58回歯科基礎医学会学術大会が札幌コンベンションセンターにおいて開催され、本学歯学部5年生の関有里さんと石田成美さんの研究発表がモリタ賞・優秀学生ポスター賞を受賞しました。

同学会は歯学部の解剖学、組織・発生学、微生物学、生化学、生理学、薬理学、病理学が集まる歯学部基礎系最大の学会であり、モリタ賞は各7分野の若手および学部学生の中から各1題の優秀ポスター賞が選出されます。これらのポスターはすべて英語です。

今回の受賞となった研究発表のタイトルは、「新規組織透明化技術による歯および歯周組織の立体構造解析」です。組織を丸ごと透明化する技術は、脳などの軟組織の3次元的な構造解析技術として注目されています。本研究では歯を含む硬組織の透明化に初めて成功し、共焦点レーザー顕微鏡を使ってマウスの下顎や頭頂骨の構造や石灰化過程を明らかにしたものです。

研究室配属のカリキュラムがある国立大学からの発表が多い中での受賞は、臨床実習後に遅くまで実験してきた学生の努力と本学歯学部の研究活動が高い評価を受けたと言えます。ポスター討論時には、全国から集まった歯学部の教員・大学院生に加え、第1回北海道個体差口腔健康科学シンポジウムに出席した海外提携大学の学生との議論や情報交換が行われました。受賞学生の更なる活躍が期待されます。



## 眞島いづみ学外研究員(歯学部)が日本細菌学会北海道支部会賞を受賞

9月17日(土)、第83回日本細菌学会北海道支部会学術総会が北海道大学において開催され、歯学部微生物学分野の眞島いづみ学外研究員(日本学術振興会特別研究員PD)のオールプレゼンテーションが優秀賞に選ばれました。

眞島研究員の発表演題「口腔Veillonella全6菌種同定One Step PCR法の開発」は選考委員会から高い評価を受け、国際学術雑誌PLoS One(2016)に本研究内容の一部が発表されております。

眞島研究員は本年11月から、米国のニューヨーク州立大学バッファロー校歯学部口腔生物学講座へ留学中です。



## 第12回アスタキサンチン研究会で本学大学院生が「アスタキサンチン研究会奨励賞」を受賞

第12回アスタキサンチン研究会が、9月24日(土)、ボルファートとやま(富山市)にて開催され、本学歯学研究科(臨床口腔病理

学)大学院生の原田文也さんが「奨励賞」を受賞しました。同賞は、アスタキサンチン研究の進歩に寄与する優れた研究を発表し、将

来発展の期待される若手研究者に贈られるものです。

原田さんは、富士フィルム(株)の開発したナノアスタキサンチンを用い、「ナノアスタキサンチン経口摂取による紫外線角膜障害の軽症化」というテーマで発表しました。研究の指導は、北市伸義教授(个体差医療科学センター 眼科学系)が中心に行いました(本学共同研究者:森川哲郎大学院生、植原治助教、安彦善裕教授)。また、同グループでは、アスタキサンチンによる口腔がん予防や歯周病予防への応用を目指し研究を進めております。



左から原田さん、吉川敏一会長(京都府立医科大学)



左から北市教授、原田さん、阪口博之主任研究員(共同研究者、富士フィルム)

### EDITOR'S NOTE

2016年も残り2カ月となりました。今年はリオオリンピックの開催もあり、スポーツ観戦の機会が多い1年でした。今回のオリンピックでは、前回を上回る最多41個のメダル獲得に日本中が歓喜し、4年後の東京オリンピックに向けて日本人選手の活躍に期待が増す結果となりました。

また最近では「北海道日本ハムファイターズ」の日本シリーズ進出で、連日手に汗握り、一喜一憂しながら戦況を見守り続けた方も多かったのではないのでしょうか。首位から最大11.5ゲーム差という大差があったにもかかわらず、逆転優勝、10年ぶりの日本一を果たす結果となりました。

絶望とも思える首位との差があった時、栗山監督が心がけていたことは、「常に選手の力を出し切れる環境をつくる」ということだったそうです。時には、選手たちに非情とも思える競争をさせ、思いもよらないアイデアを実行する。しかしこの考えにより、選手一人ひとりが力を100%発揮し、のびのびとプレーすることができ、だからこそ躍動感のある高いパフォーマンスができたのではないかと思います。

私たち教員も一人の指導者として、学生が力を出し切れる環境をつくり、学生の持っている力を伸ばしていきたいものです。

(R・C記)

## ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.165

STAFF ● 遠藤 泰 浜上 尚也 長澤 敏行 伊藤 修一  
遠藤 紀美恵 志渡 晃一 金澤 潤一郎 武田 涼子  
澤村 大輔 白鳥 亜矢子 千葉 利代 杉谷 昌彦  
宮川 雄一 塚田 将人 園部 望未

発行日 ● 2016年11月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課  
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757  
☎0120-068-222  
<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/>

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしております。  
E-mail:nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp



#### 北海道医療大学の教育理念

生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。